



# さくら通信



Hoju  
Group  
宝樹会

No.18

2020

宝樹会によるウィーン発の浄土真宗会報誌

## 道を求めるころ (14)

道を求めるころ (その2) 5

岡本英夫

### 女性の善知識

女性の善知識も数多く登場します。その中、25番目の善知識である獅子奮迅比丘尼（ししふんじんびくに）を見てみます。「叡智の女性」とも言われる人です。この女性の住処は無辺莊嚴国（むへんしょうごんこく）の迦陵伽林（かりょうかりん）の城です。果てしなく莊嚴されている（\*1）国。この国の精神的深さが思われます。また、迦陵伽は「明敏（めいびん）」という意味で、精神的に深く明敏であるという意味を表す環境の中に、この女性が住んでいる。そういう意味で叡智の女性と言えるでしょう。

この女性の徳を表すのに、住んでいる庭、林というべきでしょうが、その様子で象徴しているようです。



### 木のもとのお話(18)

私たちの立っている浄土は下から私たちを支えてくれています。きよらかな浄土に支えられ、阿弥陀の光をうけて私たちは生きています。しかし煩惱いっぱいの私たちはそれをなかなか実感できない。それを実感するには、私たちが自己とは何かを目覚めることが大切です。

まず「満月」と名づくべき樹木がある。周囲を静かに照らす大きな存在です。

第2は「普覆（ふふく）」。大きな傘です。多くの人を雨宿りさせることができる。

第3は「華蔵（けぞう）」。高い樹で、葉と葉の間に飾りがある。全身の美しさでしょう。

第4は「柔軟（にゅうなん）」。果実を生み出すのに光をもってする。その優しさ。

第5は「明浄（みょうじょう）」。宝石のように光り輝く明朗性。

第6は「衣（え）」樹（えじゅ）。妙宝（みょうほう）の着物を着こなす力がある。

第7は「歡喜（かんき）」。自然の音楽を奏で、常に内心に喜びを湛えている。

第8は「普莊嚴香薰（ふしょうごんこうくん）」。あらゆる香りを漂わす。

これらの特徴を持つ樹木のなかに現れたその女性は、次のようであった。嚴かで、心はしっとりとし、歩くこと象のごときであり、性格は明るく、何ものも恐れず、誰もこの人を覆すことができず、悩む人に涼香を与える。

童子はこの女性の生活全体に触れて、教えを聞く前に心身柔軟となり、限りない法の雲に心を潤され、喜びのあまり五体投地して身を投げ出したのです。 （続く）

（\*1）莊嚴されている...願いをもって作り上げられている、という意味

